

金沢学院東高校の第五十二回卒業証書授与式は三月一日、金沢市観光会館で行われ、卒業生二百三十七人が輝かしい未来に向けて一歩を踏み出しました。今回の卒業式で、昭和二十七年に金沢女子短期大学高校として開校して以来、累計の卒業生数がちょうど二万人に達しました。ロビーでは美術文化コースの卒業制作展も開かれ、式に彩りを添えました。

## 東高校卒業式



石田校長から卒業証書を受け取る卒業生  
代の梶川健太君。金沢市観光会館

## 第一印象を良くしよう

## 卒業生2万人に

各クラスの担任が卒業生の名前を読み上げ、総代の梶川健太君が石田毅士郎校長から卒業証書を受け取りました。石田校長の式辞に続き、飛田秀一学校法人金沢学院理事長が告辞で激励の言葉を贈りました。

齊藤千佳子同窓会長の祝辞と、在校生代表の中村祥宏君の送辞にこたえて、卒業生総代の中森早希さんが「伝統だけにとらわれず、新しい風を巻き起こし、東高校を飛躍させてほしい」

飛田理事長告辞(抜粋)  
見た目を大切にしてほしい。自分が周りにどう見られているかを意識することが大事である。たったの十五秒で第一印象が決まる。悪い印象を変えるには気が遠くなるほどの時間と労力が必要。第一印象から良いスタートを切ってほしい。

石田校長式辞(抜粋)  
人生の大きな節目に二つのことを話しておきたい。一つは「誠実に生き、人から信頼される人間になってほしい」、二つ目は「人々の幸せに役立つ生き方ができる人間になってほしい」である。それぞれの目標に向かって一歩ずつ前進してください。

と答辞を述べました。式では、校長褒賞として三力年皆勤賞十四人(代表・藪田敬悟君)、教科外活動特別功労賞・功労賞・努力賞の計二十六人(代表・多嶋遼君)と日本私立中学



答辞を読む中森さん

## 培った感性を形に

### 短大 生活デザイン専攻が卒業研究展

金沢学院短期大学生活文化学科生活デザイン専攻の第五回卒業研究展は二月十八日から二十日まで、金沢市観光会館で行われました。二年間に培った感性で

様々な工夫を凝らして研究の成果を発表し、来訪者の注目を集めました。十九日に二回行われたファッションショーでは、普段着やドレスなど約三十点を披露しました。一年生もスタッフとして発表会を支えました。



研究の成果をまとめた展示  
「金沢市観光会館」



ファッションショーでドレスを披露する卒業生ら

### 金沢の町と川を考える

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の公開講座「川とともに生きる」は二月二十五日、石川県立美術館で開かれました。東四柳史明教授ら同科教員五人がパネリスト、コーディネーターを務め、古代から中世まで各専門分野から、金沢の町と川のかかわりを分析しました。写真上。



初めて能を披露  
金沢学院大学能楽部の第十回自演会は二月二十五日、四号館講堂で行われ、部員十一人が日ごろの練習の成果を披露しました。初めて半能の「祇王」が披露されました。



能「祇王」を舞う学生  
= 4号館講堂

発行・広報室